

学校関係者評価報告書

2020年7月16日

学校法人国際総合学園

国際こども・福祉カレッジ

国際こども・福祉カレッジ (WM) 学校関係者評価委員会報告

1. 開催期日

2020年7月16日(木) 18:00~19:30

2. 開催場所

国際こども・福祉カレッジ 古町キャンパス 501 教室及び ZOOM 参加

3. 出席者 (8名)

- ◇外部委員 荒井哲 (古町通2番町町内会 副会長)
- 稲田泰紀 (国際こども・福祉カレッジ校友会 会長) (zoom)
- 宮崎則男 (新潟県介護福祉士会 会長) (zoom)
- 地引文貴 (新潟市児童相談所 課長補佐)
- ◇本校職員 時田一久
- 山田裕美 (zoom)
- 富里謙一
- 岩田綾音 (zoom)

4. 委員会次第

- ・ 学校長挨拶
- ・ 学校関係者評価委員の紹介
- ・ 2019年度事業報告及び2020年度事業実施状況報告
- ・ 学校自己評価の説明 (2019年度の取り組みについて)
- ・ 学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・ 閉会

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか

- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 教育理念・目標

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
②学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
③社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	3
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
⑤各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(2) 現状

下記《建学の精神》《学校運営理念》《学校運営方針》に則り、かつ各々の職業分野のニーズを踏まえ、各学科において、アドミッションポリシー（入学受入れ方針）、カリキュラムポリシー（授業実施方針）、サポートポリシー（学生支援方針）、ディプロマポリシー（卒業認定方針）を策定し、各学科の特徴を最大限に生かした運営を行っている。また、「保護者通信（クラス便り）」を通して、随時、学校・学科情報を発信している。

《建学の精神》

我が国は、世界に例を見ない速さで高齢者人口が増加しています。また、それに伴い要介護高齢者の増加が確実視されています。その一方で、家庭における介護機能の低下も見られ、今後の対策としては、在宅介護・施設介護を通して、高齢者が可能な限り自立した生活を送れるよう支援していく以外にはありません。

昨今、我が国においてもノーマライゼーションの思想が定着し、福祉施設や医療機関においては、与えられるサービスから自身が望むサービスを受けるために選ばれる施設としてのあり方が問われています。

このような状況を背景に、法律をはじめ各種制度・政策が毎年のように策定され、超高齢社会・福祉社会への一層の充実を図ろうとする動きが活発化しています。また、介護保険が導入されたことにより高齢者ケアを中心に、保健・医療・福祉の連携システムとしての役割を發揮することが期待されています。

一方、少子化対策等も注目されています。未来への大きな可能性をもったこどもを守り、育てていくことは、国家はもとより、社会全体の義務といえるでしょう。特に乳幼児期・児童期は、生涯にわたる人格形成の上で基礎となる大切な時期であり、この時期の保育・教育は血の通った笑顔・ぬくもりを伝えることで、健やかな成長、生きる力の育成を図ることが求められます。そのためには、人・地域・社会の相互ベクトルでの発信や繋がりが必要と言えます。

いずれにしても、これを実現させるものはマンパワー以外のなにものでもありません。

《学校運営理念》

本校は少子高齢化を迎えた日本に、「まごころ」が通い合う、やさしく・安心できる地域社会の構築を目指し、『愛情・感謝・協調』を校訓として、「福祉の理念」を兼ね備えたこども教育と福祉の人材を養成する教育機関である。その責任において、常に変化する社会情勢の中で求められる専門知識・技術を修得し、時代をリードできる人材、また、豊かな人間性を持った人材の育成を目指し、新潟から全国、更には国際社会において活躍できる「こども教育と福祉のスペシャリスト」を輩出する。

《学校運営方針》

【専門知識・技術の修得】

一般常識・知識を基礎とし、専門職者としてプライドのある仕事ができる、社会人として責任を持って仕事ができる、常に業界の最先端を意識した人材の育成を行う。そのために学習環境の整備に努め、教職員（非常勤を含む）自身が常に学ぶ姿勢を持ち自己研鑽に努め、授業実施・指導を行なっていく。

【豊かな人間性の向上・まごころの育成】

基本的な挨拶やマナー、思いやり、協調性、向上心、前に進もうとする力、そして希望する専門職への適性を日々の学校生活から身に付けることができる。そのために教職員が、学生一人一人の個性を理解し、学生と向き合った支援と指導を行なっていく。また、保護者の協力体制のもと、学生、教職員共に学校運営理念を理解し、日々・半期・年間の目標達成に向け努力し、達成する喜び及び挑戦し続ける意欲を共有する。

【地域に密着する学校・世界に通用する学校づくりを目指す】

積極的な地域福祉活動に参加することで、郷土愛を持ち地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指す。また、世界に通用する専門職者を育成するため、国際交流や教育連携を積極的に推進し、存在感ある学校づくりを目指す。また、福祉・こども教育の未来を見据えたアンテナを張り、常に時代をリードする教育内容を提供する。

(3) 課題と改善策

③④ 現状では“ほぼ適切”という自己評価ではあるが、一層「将来構想」を深化させるため、理念や目標・目的、社会ニーズを捉えた育成人材像という各々の領域を一体化させるマネジメント体系の構築が急務と考える。そのため、学生に対するエンパワメント教育を旨とする当校として、内部質保証の確立をにらんだ「教学マネジメント」という考え方を重視し、その体系構築と運営に新たにチャレンジしていく。

(4) 学校関係者評価委員による評価

社会経済のニーズと保育・福祉のニーズの分析については、まだまだ多様化していくと思われるので、「教学マネジメント」の体系構築を引き続きお願いしたい。それは、学生からも学ぶ「共学」にもつながると考えます。

2. 学校運営

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
④教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
⑤人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
⑥業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(2) 現状

①②③④ 運営方針は毎年作成される「ビジョンシート」に明記され、全教職員に周知される。学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。

教務・財務等の組織整備など、法人全体の重要事項については、理事会・評議委員会が組織され、定期的な運営状況の報告を行っており、不定期に発生する法人全体に関わる重要事項についても、理事会・評議委員会を開催して意志決定がなされている。

校内においては毎月運営会議を開催し、学校長、教務部長、事務局長、学科長、室長により各部署からの報告、検討事項について協議、決定している。また、教職員全体に対する、次年度以降の中期的な学校計画や運営指針を共有化するための全体職員会は3回開催した。7/31「学校運営方針に基づく各部署プレビジョンについて」、11/8「次年度の事業計画及び各部署プレビジョン発表」、3/26「各部署における次年度方針の発表」。

- ⑤ 人事、給与については、法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- ⑥ 全職員が各種法令や地域のルールを遵守するよう心掛けており、新入社員はビジネスコンプライアンス検定（初級）を受験、合格することとしている。
- ⑦ 教育活動等については当校 Web サイト等により情報公開に努めている。
- ⑧ 情報システムとしては、学籍管理システム、財務会計システム、予算検討システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。

(3) 課題と改善策

③ 運営組織や意志決定機能は明確化されているが、2キャンパス体制であることから会議等における校舎間移動等の時間的ロスが課題の一つであった。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにも今後はオンラインによる会議開催を早急に検討していく。

(2020年5月の運営会議よりオンライン会議を採用)

(4) 学校関係者評価委員による評価

新型コロナウイルスの感染拡大によって、年明けからの学校運営は授業変更なども含め大幅な変更を余儀なくされたが、ビジョンシートに始まり各部署の方針作成、そして事業実施は組織的に行われている。

昨今、働き方改革が言われている中、教職員の方々が精神的・肉体的に疲弊しないよう、今後も工夫ある運営を続けていただきたい。

3. 教育活動

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
②教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	3
⑥関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	3
⑭職員の能力開発のための研修などが行われているか	3

(2) 現状

- ①②③ 教育課程の編成・実施は教育理念、教育目標を踏まえた上で、外部の関係分野の方々を委員とする「教育課程編成委員会」での意見や決定事項を反映しながら、厚生労働大臣指定養成施設（介護福祉士、社会福祉士、保育士）としての指定基準に適合する内容で学科長を中心に毎年策定される。
- ④ 厚生労働大臣指定の養成施設としてのカリキュラム（知識・技能）に加え、人間力（思考力・判断力・表現力・学びに向かう力）を高めるため、独自科目である『実践行動学』、体験・経験を重視する各種フィールドワーク等を取り入れ、専門職としての総合的な実践力を持てるよう支援している。
- ⑤ 毎年2回以上の教育課程編成委員会を開催し、行政関係者や福祉業界団体、福祉現場施設長等からカリキュラムや授業内容に関しての意見をいただき、改善に活かしている。

- ⑥ 実践的な職業教育として、全ての学科で実習施設と連携した実習を行っている。
- ⑦ 授業評価については前期・後期の各期に1回、年間2回の学生授業評価アンケートを行っている。結果は担当教員にフィードバックされ授業の改善に反映されている。
- ⑧ 毎年1回以上の「学校関係者評価委員会」を開催し、地元町内会や本校同窓会、福祉業界団体、行政といった様々な立場の方々より評価をいただき、学校運営に活かしている。
- ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、「学生の手引き」に記載され学生・保護者に周知されている。
- ⑩ 国家資格の取得に関して、それぞれの学科において必須科目を効率よく修得できるようカリキュラムに配置されている。また国家試験受験対策では必要に応じて個別指導を実施している。
- ⑪⑫ 各学科とも厚生労働大臣指定養成施設としての要件を備えた教員を確保している。
- ⑬⑭ 法人の資格取得奨励制度の活用による専門分野の資格取得促進を含め、各種研究会や学会への参加を業務として、又は情報提供及び推奨している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

- ④ コロナ禍の影響もあり実施できないクラスもあった。今後、実施時期やオンライン等での実施方法なども検討していく必要がある。
- ⑤ 今後はコロナ禍の影響も想定し、実施時期やオンライン等での実施方法なども検討していく必要がある。
- ⑩ 学生個々の学力差が課題である。連携短大、大学の通信教育カリキュラムや学習方法には規定もあり、大きく変えることはできないが、レポートや試験の採点基準は科目ごとに学生に提示されており、以前よりは学生の学習目標が立てやすくなった。しかしながら授業内の短大、大学課題に対する解説サポートだけでは、理解不足の学生もおり、放課後などを利用しての個別指導を行っている。この対応は体系的なものでなく、担任が臨機応変に実施する状態であったので、入学前から入学後も継続的に、学生の傾向と課題を踏まえて、計画的に補習を行う体制を整えていきたい。併せて、入試段階からアドミッションポリシーを踏まえた選考や入学前指導を行い、入学後の指導に繋げていくことが必要である。
- ⑬⑭ コロナ禍の影響から、一部の教員養成講習会が延期となったまま年度を終えた。必須研修の一つであるため、講習会再開後すぐに対象教員が参加できるよう業務調整の準備を行っている。また、学校としても「FD・SD」機能の更なる充実を図りたい。

(4) 学校関係者評価委員による評価

授業のオンライン化について、実習・演習科目などへの影響が懸念されるため、国や県などと連携を図り、学生が不安にならないよう対応していただきたい。また、Wi-Fi等環境整備が整っていない学生には、NSGグループによるWi-Fiの無料貸し出し等を行っているとのこと、今後も臨機応変な学生支援に期待。

コロナ禍の影響はアドミッションポリシーや授業の内容、就職支援の在り方まで抜本的に変化をもたらす可能性がある。福祉職を希望する学生は減りつつあるが、だからこそそ

の学生たちが目指す就職先に就職できるよう支援をお願いしたい。

4. 学修成果

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①就職率の向上が図られているか	4
②資格取得率の向上が図られているか	4
③退学率の低減が図られているか	2
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

(2) 現状

- ① 就職部長・就職相談室長を配置し、法人の関連部署、ハローワーク、業界、卒業生等との連携を図り、求人獲得、就職支援を行っている。また、キャリア教育として、業界関係者、業界で活躍する卒業生等による講演を毎年開催している。さらに、就職に向けた動機付けや業界研究等を行う宿泊型の研修も毎年実施している。
- ② 国家試験受験学科である介護福祉学科（現：福祉健康サポート学科）、福祉心理学科、医療福祉マネジメント学科、社会福祉学科では、受験勉強の早期取り組みや個別指導などを通じて、全国平均よりも高い合格率、学科によっては全国1位の合格率を維持している。
- ③ 健康上の理由や精神的な理由による欠席等、学生の状況については、毎月の運営会議で情報共有される。また、クラスごとに担任を設置しており、学生生活上の諸問題への支援をきめ細かく行うとともに、必要に応じて保護者との連携・個別面談等を実施し、退学率の低減に努めているが、2018年度の退学率4.2%に対して2019年度は6.4%であり、2ポイント以上後退した。
- ④⑤ 卒業生については校友会が組織され、校友会との連携により卒業生の動向を把握している。校友会では各クラスより1～2名の実行委員が選出され、名簿の作成や同窓会等の校友会活動が実施されている。

(3) 課題と改善策

- ③ 今年度の退学者の退学理由は約半数が疾病等によるもので、本人や保護者と連携を図りながら対応したものの、快方に向かわなかったケースも多い。学校としてはアドミッションポリシーに基づく入学前のAO面談や、面接時から出来る限り状況を把握し、可能な支援を考え実行しようとするが、特に精神的な疾病の場合は自己申告に頼るところが大きく、早期対応が出来なかったケースもある。

そうした状況に対応するためにも、2020年度からは学校内にキャンパスソーシャルワーカーを設置する準備を進めている。

(2020年4月、学校内にキャンパスソーシャルワーカー室を開設した)

(4) 学校関係者評価委員による評価

各種国家試験合格率の高さは素晴らしく、先生方のきめ細やかな指導の賜物だと思う。一方、退学に関してはその原因が疾病や体調によるものが多いが、新しく設置したキャンパスソーシャルワーカー室や経済的支援策等も駆使して、学生たちの学業の継続に尽力いただきたい。

5. 学生支援

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
②学生相談に関する体制は整備されているか	4
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦保護者と適切に連携しているか	4
⑧卒業生への支援体制はあるか	3
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

(2) 現状

- ① 進路・就職相談について、就職相談室長が中心となり、本人の希望や事業所とのマッチング等に配慮しながら個別支援を行っている。
- ② 財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度、新潟リハビリテーション病院での院内対面カウンセリング制度を整備し、精神的な問題を抱える学生相談に対応している。
- ③ 経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。さらに、「高等教育の修学支援新制度」を申請（7学科8コース）し、対象となった。
- ④ 一年に1回、全学生の健康診断を実施しているほか、現場実習前などには腸内細菌検査、秋にはインフルエンザ予防接種を実施している。
- ⑤ 課外活動については、一定の基準を満たした活動団体について、学校認定サークル活動とし、活動費の補助等の支援を行っている。
- ⑥ 日常生活上の相談などは担任や学科長を中心に対応しており、外国人留学生に対しては在留資格更新手続き等の支援も行っている。
- ⑦ キャンパスごとの状況に応じた実施方法をとった。新潟駅南キャンパスは従来通り年2回の保護者会を開催し、希望者にはクラス担任との個別面談を実施した。古町キャンパスは、原則すべての保護者に対して個別面談を実施、夜間や土曜日も対応した。

- ⑧ 卒業生に対しては、随時、就職活動の相談に応じたり、情報交換を行っている。
- ⑨ 社会人学生は必要に応じて行事参加や宿泊研修を免除することがあるほか、国家試験の受験勉強や就職活動等において個別に早期に対応する場合もある。
- ⑩ 昨年度に引き続き、高校への出前授業を実施し、福祉業界の啓蒙活動の方法を模索している。

(3) 課題と改善策

学生の健康管理や様々な支援体制について、全て新型コロナウイルス感染防止を前提として再構築していく必要がある。

(4) 学校関係者評価委員による評価

今年3月に卒業した外国人留学生も無事に国家試験に合格し、介護現場に就職したとのこと。経済面や家庭環境など学生個々の課題に対応する関わりを継続していただきたい。

6. 教育環境

- (1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
③防災に対する体制は整備されているか	4

(2) 現状

- ① 養成施設として厚生労働省の基準に適合した教育設備及び教育備品の整備を行っている。
- ② 実習施設に関しては各養成校の基準に適合する施設に依頼をし、その都度実習の承諾を得ており、実習依頼時や、実習巡回時を中心に必要な事務手続きや情報交換を行っている。
- ③ 福祉人材・こども教育者としての防災意識を高めるため、年2回の火災・災害避難訓練を実施している。

(3) 課題と改善策

施設設備に関しては教育上必要なものは十分に揃っているが、新型コロナウイルス感染防止対策としての備品や消耗品を新たに整備していく必要がある。また、実習先となる福祉施設でも感染防止の観点から、実習受入れが困難となるケースが増えていく。学内実習という実習形態を早急に検討していく。

(4) 学校関係者評価委員による評価

良好である。

7. 学生の受入れ募集

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①学生募集活動は適正に行われているか	4
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4

(2) 現状

- ① 学生募集については、パンフレット、学生募集要項を毎年作成し、入学希望者に配布している。また、月1~4回の頻度でオープンキャンパス・学校説明会・個別相談会を開催し、専門分野の説明や授業体験を実施する等して当校に対する理解を深めてもらっている。
- ② 高校ガイダンス、会場ガイダンス、高校訪問、大学訪問など、直接伺い、学校や保育・福祉業界の啓蒙及び学生募集活動を行っている。なお、卒業生の進路状況や就職実績状況、また検定資格取得実績等の教育成果を、学校パンフレットや資料を配布すると共にホームページ上でも公開している。

(3) 課題と改善策

特になし。

(4) 学校関係者評価委員による評価

コロナ禍の影響により、介護現場では無資格者の中途入社が増えてきている。もちろん大事なマンパワーであるが、やはり一定の教育を受けてから現場に出てくる人材は介護等技術面だけでなく、例えばウィルスや細菌等感染症予防についての意識なども違う。

少子化により子どもの数は減少している。福祉に興味を持っていただくことは、学校だけではなく地域全体で取り組むべき課題である。

8. 財務

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③財務について会計監査が適正に行われているか	4
④財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 現状

- ①②③ 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。
- ② 財務情報等の情報公開はホームページ上で行っている。

(3) 課題と改善策

特になし。

(4) 学校関係者評価委員による評価

良好である。

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④自己評価結果を公開しているか	4

(2) 現状

- ① 各養成課程としての法令の遵守はもちろん、専門学校設置基準における法令の遵守について、所轄官庁との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、所轄官庁等からの通知についても法人本部を通じて学校に通知され、教職員に周知されている。
- ② 個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生の手引きに記載され学生へも周知されている。
- ③ 学生・保護者・教職員へのアンケート等も踏まえた自己評価を実施し、問題点については順次改善に取り組んでいる。平成 25 年度からは学校関係者評価委員会も設置し、自己評価の妥当性、透明性の向上を図っている。
- ④ 本報告書についてはホームページ上で公開している。

(3) 課題と改善策

特になし。

(4) 学校関係者評価委員による評価

良好である。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
①学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 現状

- ① 地域の中学校の総合学習を受け入れ、積極的に福祉教育の支援を行ったり、町内会活動や地元の祭り・イベント等に協力している。

古町キャンパスでは町内会と災害時に学校を臨時津波避難所とする協定を結ぶなど、地域に密着した学校づくりを目指している。さらに、例年町内会との合同による津波避難訓練を実施したり、地域の託児施設の避難訓練先として校舎を利用していただいたりしている。

新潟駅南キャンパスでは7月と12月に、校舎内キッズスペース等を利用して、地域の親子を招き子育て支援イベントを実施。15～20組の親子が参加してくれ、学生の経験としても学びのあるものであった。今後も継続して実施していきたい。

- ② 学生・教職員共に様々なボランティア活動を積極的に推進している。2019年度は新潟県からの依頼で「新潟県障害者スポーツ大会」の運営スタッフとして84名の学生が参加した。
- ③ 介護福祉士実務者研修（通信課程）を教育訓練給付金対象講座として実施している。また、新潟県立新潟テクノスクールより職業訓練を受託し、介護福祉士・社会福祉士・保育士それぞれの養成課程で訓練受講者を受け入れている。

(3) 課題と改善策

特になし。

(4) 学校関係者評価委員による評価

とても充実した教育内容と実績で地域貢献を果たしている。学生たちは社会や地域のルールも守りながら地域にとけ込んでいる。有益な人材を輩出できる学校と考えられるから、その強みをアピールして新潟県内外から学生を集めてほしい。卒業生たちも地域の福祉現場で活躍していると実感しています。